

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は作りあげている。地域密着型サービスに位置づけられたグループホームにおいて、その人らしく暮らし続けることを基本に、職員間で話し合い、地域の行事にも参加し住民との交流を図っている。		その人らしい暮らしが続けられるよう 地域との関わりを持ちながら、ホームとして何を求められているのか、運営理念をより地域に根ざしたものに改訂していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、和室、事務所の見やすい所に大きく掲示している。また、毎朝申し送りの時に唱和し、日々のケアの中で意識し取り組んでいる。		地域との関わりがなかで、その人らしく暮らしていただくために、ホームとして職員として何を求められているのか、その人らしい暮らしとは何かを職員全体で話し合い、運営理念の共有、理念の実践に向けていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開設当初の運営理念だが、入居の契約時や安居日より 運営推進会議等で説明している。		入居者様が、地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を再構築し、再度御家族や地域の方々に説明し理解していただく。
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方 (お米屋) から果物や野菜の差し入れを頂いたり、畑を手伝っていただいたり、又入居者様の昔の旅行仲間が遊びに来られたりしている。		ホームの周辺が工場の団地になっており、隣近所の方と気軽に声を掛け合うことが出来ないため、日常的な外出、買い物をもっと増やしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として区長様よりお声掛けいただき、老人会 (かのごクラブ) に参加したり、ホームの夏祭りでは、地域の方にボランティアとして参加していただいたりして、地元の方々と交流を図っている。		「グループホームに入居されている方々は、特別ではない。」ということ、地域の方々に分かっていただけるようこれからも積極的に地域の行事や活動に参加し、多くの方に「グループホーム安居」を理解していただく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームも開設3年目に入り、認知症に関わる知識や介護の相談などを地域の老人クラブなどの活動参加時に受けることが多くなった。また全体カンファレンスやミニカンファレンスを開催し、認知症の勉強会等を行っている。		入居者様への支援を元に、グループホーム安居が地域に溶け込めるよう努力していきたい。地域への清掃活動を検討中である。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員各自で自己評価を行い、評価の意義を理解している。評価の結果については、全体カンファレンスを開催し、話し合い改善に努めている。運営推進会議の場で外部評価の結果を報告している。		自己評価項目を業務内容の方向性として捉え、更にサービスの質の向上に努めたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の方や御家族に参加していただき、外部評価の結果報告やホームの活動状況を報告し、意見等を頂き改善に努めている。		運営推進会議には、より多くの方に参加していただく方法を検討した。それは、運営や業務の取り組みについてより多くのご意見やご要望を頂き、サービスの質の向上を図る目的のためである。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員として参加して頂き、意見等を頂戴している。また、必要時は随時電話連絡をしている。ボランティアの協力を得るため、社会福祉協議会を尋ねている。		地域密着型サービスに位置付けられたこともあり市町村との関わりは大切である。定期的に行き来する機会を作りたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に資料を配布し、学習する機会を作った。外部での講習会を受講し、学習している。現在、この制度のご利用機会はない。		権利擁護事業や成年後見制度の必要性を、グループホーム全ての職員が理解していることを目標に、取り組んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料配布し、全体カンファレンスで事例を話し合ったり理解を深めながら入居者様が安心して生活が送れる様取り組んでいる。		全職員が虐待を理解し、全職員で虐待が起きないように細心の注意を払い、虐待防止に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、面談を行い契約書の説明やホームの運営理念、医療連携体制の対応について等詳細に説明し、御家族に同意を得ている。</p>		<p>充分時間を取り、御家族の不安な事などを聞き、納得の上契約されるよう今後も継続して十分な説明を行っていく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で入居者様の言動から思いを察する努力を行っている。また、運営推進会議に入居者様も参加していただき、自由に意見を言える場を設けている。</p>		<p>入居者様とのコミュニケーションを図り、意見や不満等遠慮なく言える雰囲気作りを努める。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ケース会議や面会時等、日常生活状況を伝えるようにしている。また、必要時はその都度電話連絡し報告している。</p>		<p>お便り等を定期的に送付できるよう検討している。また、行事等の写真は、ホーム内に飾り、入居者様と会話しながら楽しんでいる。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から、御家族と職員とのコミュニケーションを図り、意見や不満等言える雰囲気作りをしている。またホーム内には、苦情箱を設置しており、ご意見等出しやすいようにしている。</p>		<p>御家族の意見やご要望が言い出しやすい雰囲気作りや環境を整えていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミニカンファレンスや月に一度の全体カンファレンスにて、意見交換を行い、提案等聞く機会を設けている。管理者は職員と積極的に関わりを持つ事を心がけており、意見を述べやすいようにしている。</p>		<p>職員の気付きや、意見を大切にし、サービスの質の向上を目指す。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化にて、その都度話し合いを行い、必要であれば、人数を増やす等対応している。</p>		<p>より以上に柔軟な対応が出来るよう、人員の確保を行い入居者様の安全な生活が送れる様検討中。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に、ユニット毎の職員を固定化し、馴染みの職員のケアを受け、変化のないようにしている。また継続的に働きやすい職場作りを努めている。</p>		<p>入居者様が、安心して生活が出来るよう、ストレスのない職場作りを目指し、福利厚生面の充実も含めて離職者の軽減を図りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>性別や年齢を理由にした採用の排除は行っていない。幅広い世代の個性ある職員が集まっている。研修の参加や資格取得のための勉強会の参加ができるよう勤務調整を行い、自己研鑽を高めている。</p>	<p>今後も更に研修等に参加できる環境作りを行い、職員が能力の發揮できる場を提供していきたい。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>母体病院での新入職者オリエンテーションで人権教育等実施し、資料等配布している。また、月一回の昼礼を通じて基本的な取り組み方を学んでいる。</p>	<p>外部の研修等にも多くの職員が参加できるよう勤務体制を確保していきたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>入職時の研修や、その後も多くの研修に参加している。各自外部で研修を受けた際には、伝達講習を実施している。</p>	<p>今後も外部の研修に参加できるよう勤務体制を考えていきたい。また、ホーム内で教育委員を設置し、計画的に勉強会などを行っていきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者との交流をする機会は、まだありません。</p>	<p>地域とのネットワーク作りや、同業者との交流を図り、他施設の活動状況等も参考にさせて頂きサービスの質の向上につなげていきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に親睦会を実施している。管理者と職員は、日頃の会話の中で、ケアの悩みやストレスを言い合える関係ができている。また、管理者は職員の心身の状況把握に努め、積極的に関わりを持つ事を心がけている。</p>	<p>職員間のコミュニケーションを活性化し、相談しやすい雰囲気作りを行う。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。</p>	<p>職員が、向上心を持って働けるよう研修等に積極的に参加している。</p>	<p>職員がやりがいを感じて、仕事ができるよう人事考課を検討中である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご入居前にご本人と面談している。事前に少しでも顔を覚えていただけるよう、希望等を聞くと共に会話を通して意向を感じ取るようにしている。</p>	<p>ご本人との面談の回数を増やし、職員と一緒に過ごす時間ができるようにすることで、馴染みの関係に繋がるように努めたい。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご入居前に御家族とは、数回に亘り電話連絡を行い、面談を実施。不安な点やご意向を十分に受け止めて、常にご相談しながら、関係作りをしている。</p>	<p>ご本人や御家族の思いを全職員が、受け止めアセスメントやケアにつなげていく。</p>
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面談の中で、必要とし求められていることを把握し、医療のサービスについては母体病院と連携を図りながら行っている。</p>	<p>ご本人や御家族の必要としている支援が何かを見極め、他の事業所の利用を含め、積極的に支援を行っていく。</p>
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>御家族と相談し、雰囲気を感じていただけるよう、ご本人と一緒に見学をお願いしている。また、入居日はご本人や御家族のご都合で調整している。また、入居後も安心していただく為にいつでも御家族の宿泊が可能である。</p>	<p>ホームに安心して入居していただけるよう、お試し泊まりなども検討していきたい。また同一敷地内のショートステイをご利用され、その後、ご入居となるよう徐々に雰囲気作りを行っている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「第二の我が家」となれるように、家族の一員として接することで、日々の生活を共に楽しく過ごせるよう努めている。</p>	<p>コミュニケーションを大切に、人生の先輩方であるという尊厳を忘れずに、日々ケアしてく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族とのコミュニケーションを大切にしており、日々の身体状況は面会時にお伝えしている。解決しなければならない課題があれば、御家族に連絡し、決して当方単独での判断は行わない。		今後も御家族と共にケアをさせていただくという思いで、よりよい関係作りをしていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	御家族と入居者様との関係を理解した上で、面会の回数を増やしていただけるよう努め、またご本人御家族の話をよく聞き、よりよい関係作りの手助けになるよう意識付けを行っている。		御家族と入居者様とのよりよい関係作りに、職員は何をすべきか等常に考え、支援していきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	日常の会話の中で、思い出の場所等を聞き、そこへ出かけたたり友人や知人の面会を支援し、馴染みの関係が継続できるよう努めている。		誰もが、来訪しやすいハード・ソフト面の充実を図り、よりよい雰囲気作りを行っていきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている	入居者様の性格を把握した上で、食事の席やレクリエーション等の配置を考慮している。また、孤立しがちな入居者様には、職員が関わり、他の方と交流が持てるよう支援している。		入居者様全員が、安心して過ごせる共同生活であることを、常に考えながら支援していきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	母体病院へ入院になった方には、職員がお見舞いに行ったり、自宅等への退居後も御家族からの相談に応じている。		契約終了しても、継続して利用者様のお気持ちになり、考えていながら、出来る限り支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の行動や会話の中で、意向をくみ取り職員間で情報の共有を図りながら、その方らしく過ごせるにはとアセスメントし、支援している。</p>		<p>入居者様の希望や意向をくみ取れるよう コミュニケーションを大切に、その方らしく個々に合ったケアが行えるよう 支援していきたい。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ケアマネージャーからの情報提供や、御家族様より生活歴等聞き、その方らしい馴染みの生活が出来るよう把握に努めている。</p>		<p>今後も入居者様の過去の生活環境等、多くの情報を収集し職員間で共有し、その方らしい生活が出来るよう 支援していく。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>表情や行動、会話の中でその方を観察し、ケアプランに沿ってアセスメント記録する。職員全員で情報を共有し、状態把握に努めている。</p>		<p>状態の観察を密にしながら、総合的に把握できるよう努める。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>御家族とご本人の希望を取り入れ、職員間で話し合い介護計画を作成している。</p>		<p>その方らしい生活が送れる様、ご本人主体の介護計画を立案していきたい。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>三ヶ月に一度、介護計画書の見直しを行っている。身体状況の変化があった時には、その都度見直し変更プランや追加プランを作成している。また三ヶ月に一度の見直しの際には、御家族にも参加していただき、カンファレンスにて話し合い、ご希望等伺っている。</p>		<p>その方らしく安心して生活が送れる様、随時対応できるように、サービスの質の向上を図りたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状況や、ケアプランに内容等細かに記録し、職員間で情報の共有をしている。		個別の健康管理表を作成し、一ヶ月を通して健康状態観察、把握ができるようにしている。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設が病院であり、医療連携は十分に取れており、入居者様がスムーズに外来受診等できるようにしている。また、ホームでの生活が継続できるよう病院と連携しているが、入院された場合には、早期退院できるように本人や御家族のご意向に沿った対応ができています。		ホームでの生活が継続できるよう、御家族や病院との連携調整を今後も引き続き行っていきたい。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者様が安心して地域に溶け込んだ生活が送れる様、地域の老人クラブへの参加を実施。また、歌や楽器演奏のボランティアや地域の保育園との交流会も定期的に行っている。		多くの地域の方々に協力していただきながら、安心して地域での暮らしが継続できるよう今後も支援していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスの活用支援はしていない。		他のサービスの活用支援の為に、サービス事業者等関係機関との連携を深めていきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行政の方や地域包括支援センターの方には、運営推進会議に、参加していただき、多くのご意見を頂いている。		入居者様の生活がよりよいものになる為、関係機関との連携を深めていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や御家族のご希望を尊重し、協力医療機関以外でも受診できるよう支援している。		ご本人や御家族の希望を大切にしながら、適切な医療が受けられるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体病院の福岡聖恵病院の認知症専門医に相談している。又、必要時には診察が可能な体制となっている。		継続して母体病院と連携を取りながら、健康状態の管理をしていく。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に看護師が常勤で勤務しており、母体病院との連携も取れており、医師に指示を仰いだり相談したりできる。		継続して母体病院と連携を取りながら、健康状態の管理をしていく。
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院に入院時には、情報提供書を作成し、情報交換を行っている。また、早期退院にむけて、医師や御家族様と相談しながらカンファレンスを行っている。		早期退院が出来るよう、医師や看護師、御家族との情報交換や相談が、より以上にスムーズに行えるよう、連携を図っていく。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期においては、入居時に説明している。身体状況に応じて早い段階から、医師や御家族と話し合い、今後のことを決定していく方針である。		ご本人の身体状況に応じて、御家族や医師と情報を共有して連携を取りながら、方針を決定していく。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した入居者様が、ホームで継続して生活が可能であるか、医師や看護師、御家族との話し合いをしながら、今後の対応を決めている。変化に備え、御家族には十分に説明を行い、最大限のサービスを提供し、医療が必要な時は臨機の対応が可能な体制となっている。		重度化や終末期の入居者様が、よりよく暮らしていけるように、医師や御家族様と連携し協力しながら、取り組んでいきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な情報交換と話し合いを行っている。無理のない生活を送れる様、ご本人様、御家族様了解のもと、情報提供書も作成し、大きな環境の変化にも対応できる体制を施している。		御家族や関係職員と連携を取り、住み替えによる、ダメージを最小限にするよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切に、訴えに対し傾聴し、否定せず個々に合った対応を行っている。また、個人情報の守秘義務についても、周知徹底している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、接遇にも気をつけるよう徹底している。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの生活パターンを大切に、その都度ご本人の思いを尊重している。テレビ番組、散歩の道順等小さなことでも選択していただくようしている。また、個々に合った尋ね方をし、質問の形で問いかけ意思決定をしていただく。	どのような場面でも、必ずご本人の意思を確認し自己決定できるよう支援する。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペースを保ちながら、その方らしく生活が送れる様、見守り生活をしていただく。その方の気持ちを尊重し、個別性を考慮しながら支援を行っている。	職員の都合を優先するのではなく、個々のペースを大切に、個別対応を行っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている	美容サービスが来所し、ご本人の希望に合わせてカットをされている。御家族様と一緒に昔からの行き着けの美容室に行かれている。	美容サービスでは、カットを利用されているが、ヘアカラーもお勧めしたい。洋服もご自分で購入できるように努めたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際、職員が入居者様の間に座り、会話を楽しみながら食事をしている。また、盛り付けや下膳、食器洗いやテーブル拭きなど、入居者様の役割分担を決め、職員と一緒に家庭的な雰囲気を演出している。	楽しみの一つとして、一緒に準備や片付けも行えるよう支援していきたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒・たばこを飲まれる方、希望される方はいない。職員は、入居者様の個々の好みを把握し、甘い物やコーヒー等好まれる物を提供している。	日常生活の中で、入居者様の個々の好みに合わせた提供で、生活に楽しみが感じられるよう支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンをその都度記録し、把握できている。なるべく紙パンツやパッドを減らし、排泄介助を行っている。		紙パンツやパッドを減らし、布パンツを提供することで、快適な生活が送れる様、支援している。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を好まれる方には、毎日入浴できるよう調整し、入浴していただいている。入浴を嫌がられる方には、お声掛けのタイミングを図り、入浴していただいている。		入浴拒否の方には、職員が交代しながらお声掛けをし、入っていただけるよう支援している。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体力に応じて、居室で休まれたりソファでゆっくりされたりご自由に過ごされている。		生活のリズムを崩さないよう配慮し、健康管理を支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人に合った役割を持つ事で、生きる事への希望と喜びを感じていただいている。また、裁縫や塗り絵、散歩等楽しみを提供支援している。		日々の生活の中で、楽しみが持てるよう、楽しみ事や気晴らしの支援を行っている。(金魚の餌やり、編み物等)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方には、御家族に了解の上、持っただけでいい。また、買い物時にはご本人にお金を持っていただき、支払いをしていただいている。その他の方は、預かり金制度にて法人で管理している。必要時、使えるようにしている。		全員が財布を持参されていないので、買い物時には、お金を手渡し、ご本人がお金を持つ喜びや支払うこと等を支援している。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に中庭の散歩ができる。また天気の良い日には外部へ、散歩に出かけたり、買い物に行ったりしている。		外部へは、施設しているため職員と一緒に出かけている。希望があれば、すぐに対応できるようにしている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の希望を聞き、日程を調整して実現できるよう取り組んでいる。		最近では、温泉に行きたいとの声があがり、温泉へ出かけた。御家族にご協力を得ながら、希望に沿った個別ケアができるよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、いつでも電話をかけていただいている。		外部との自由な連絡を取り、その方らしく生活していただけるよう支援している。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には、接遇に気をつけ、再来していただけるよう声掛けし雰囲気作りを心掛けている。		いつでも訪問できる、来訪しやすいホーム作りに努めている。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を配布し、身体拘束がもたらす影響などを学び理解している。また入居者様に苦痛を与えることのないよう取り組んでいる。		全体カンファレンス時などを利用して、介護保険の苦情を学習したり、身体拘束ゼロへの手引きを読んだりしている。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設された施設でのエスケープ事例があり、国道3号線も近いことから安全性を優先し、外部門扉は施錠している。中庭への出入りは、自由である。		施錠を解除し安全性を確保するよう検討していきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、入居者様の動きを常に把握しており、作業は入居者様のそばで行っている。夜間危険な方には、センサーマットを使用し、安全の確保に努めている。		入居者様が、安全で安心して生活ができるよう動きを把握し、支援していく。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状況に合わせ、自分で管理できる物と職員が管理させていただく物に分けている。		入居者様が管理できるものを、ご自分で管理していただくことでご本人に安心を与え、危険な物は安全確保の為に職員管理をしている。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	母体病院での研修やホームでの資料配布し、各自で学習している。また、個人に合ったケアを提供することで、事故防止に取り組んでいる。		入居者様の観察を密にし、予測できるリスクに関して早急に対応が出来るよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	母体病院にて救急救命の研修が行われ、職員参加している。また、緊急時はマニュアルに沿って行動、各職員はマニュアルを把握しており、母体病院とも連携が取れている。		職員は、定期的に救命講習を受講している。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体病院と一緒に、年に二回消防訓練を行っている。また、マニュアルも作成しており職員は熟知している。		御家族や地域の消防署へ災害時の協力を依頼する。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの心身の状況の変化を把握し、起こり得るリスクについて御家族へ説明し、理解を得られるよう努めている。		職員全員で、起こり得るリスクについて話し合い、安全に生活が送れるための対応策を支援していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルサインチェックを実施すると共に、顔色、食欲低下等状態の変化が見られたときは、職員間の連携を密にし、管理者への報告を実施、迅速な対応を行っている。		状態の変化に気付くよう、日頃から入居者様の状態を観察、把握し早期発見へとつなげていきたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表を用い、二人の職員にて確認、服薬を行っている。処方の変更があった場合などは、薬局からの説明書を読み、副作用等症状の変化出現に注意している。		今後も内服薬の大切さと誤薬の怖さを、定期的に職員間で学習していきたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や好みに合った野菜を多く摂取していただいている。また、軽度の運動や入浴時の腹部マッサージ等を行っている。		食材の検討と入居者様の活動量の把握し、下剤の頻度を出来るだけ少なく出来るよう検討していく。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。一人で出来ない方には、声掛けを見守り施行。毎晩、義歯は洗浄している。		職員全員が、口腔ケアの必要性を周知することで、入居者様の清潔保持に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の管理栄養士が、献立を立てている。食事量や水分量をチェック表に記入し状態把握している。また、摂取量の少ない方には、声掛けし栄養補助食品を使用している。毎月一度体重測定を行っている。		食事量や水分量を把握することで、入居者様の健康管理をし、安心して安全に過ごしていただけるよう努める。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体病院の院内感染対策委員会に定期的に出席している。また、感染に対するマニュアルがあり入居者様、職員共に手洗い・うがい又は手指のアルコール消毒を励行し、感染流行時には、マスク着用している。		感染に対して職員に周知徹底し、ホーム内での感染蔓延の恐ろしさを伝達している。また職員に感染予防に対する意識を高めていきたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生マニュアルがあり熱湯消毒を実施している。食器の乾燥には、乾燥機を使用している。冷蔵庫は、一日2回温度管理確認を行っている。また、食材はすべてに火を通し、入居者様に提供している。		新鮮で安全な食材を提供し、入居者様の健康管理に努めている。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、表札を掲げ植木や花等があり民家を思わせるような工夫をしている。また玄関には、金魚を飼っており和やかな雰囲気である。餌は、入居者様の毎日の日課となっている。		今後も少しずつ玄関周りを装飾し、御家族や近隣の方にとって親しみやすいよう工夫していきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには、入居者様が季節の花を飾り職員と一緒に製作した壁面やカレンダー等配置している。また、穏やかに生活が出来るよう光や音には気配りをしている。特に夜間は、廊下の照明には細心の注意を払っている。		入居者様にとって、居心地よい生活を感じていただけるよう今後も生活感や季節感を取り入れていきたい。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは広く、オープンな和室がある。中庭にも椅子を置いており自由に過ごす事ができる場の確保をしている。		今後も現在のままではなく、独りになれたり気の合った方同士で過ごせる場を工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れて物を自由に持ち込んでいただいている。写真や絵等を飾ったり好まれる物を貼ったりされ、自分らしい部屋作りを行っている。		今後もご本人と御家族様に相談しながら、居心地よく過ごせる工夫をしていきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天窓を開閉することで、毎食後換気を行っている。居室、廊下、リビングには湿温度計を設置し、外気温との差がないよう配慮し入居者様の状態に応じて調整している。		入居者様の状況に応じて、調整していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室など屋内に手すりを設置している。居室内は、家具の配置に留意し、歩行不安定な方には、歩行器センサーマットなどを使用し危険防止に努めている。		今後も入居者様の状態に合わせて、安全で自立した生活ができるよう支援していきたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の尊厳を大切に、個人に合った対応をし、無理なく暮らせるよう、さげすみなく支援している。		入居者様一人ひとり個別に考えながら対応し自立して暮らせるよう支援していきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている	中庭は、自由に散歩することができ、草花などに触れながら活動が出来る場となっている。また、少し離れた場所に菜園があり、自分達で育てた野菜の収穫を楽しんでいる。		建物の外周りに行くには、安全を考慮し施錠しているため職員と一緒に菜園等に、出かける事になっている。今後は、鍵の解除に向けての、検討が残っている。

.サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に つつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様に楽しんでいただけるよう、年間行事計画を立てて実行している。 その他、希望される所へ出かけることができるよう個別ケアに取り組んでいる。 ホーム内には、昔、入居者様が忙しく働いてあったらう昭和の物や雑誌等を集め、昔ながらの空間作りをしている。 また、運営推進会議がきっかけになり、老人クラブへの参加や、ホームへの訪問等地域の方との触れ合いが実現できはじめています。 今後も地域の方にご協力を得ながら、入居者様が地域の一員として暮らしていけるよう、「家族のぬくもり・明日への希望・安全と安心」をもとに、職員一同、積極的に働きかけていきたい。